

---

# 地下鉄迷宮

ディアナ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

地下鉄迷宮

### 【Nコード】

N1971Z

### 【作者名】

ディアナ

### 【あらすじ】

シャンデラを連れだトレーナーがバトルサブウェイに入り浸りながらも、イツシュを気ままに旅するお話。  
双子の車掌と恋愛要素有りかも知れません。

## プロローグ

ライモンシティ地下。  
バトルサブウェイでの事……

「レクイエムは熱風、ノワールはしっぺ返し!!」

車内に鋭く響く指示。

レクイエムと呼ばれたオレンジ色の炎を灯したシャンデラはくるりと回ると、熱風を繰り出した。

相手のハハコモリは熱風に巻かれボールに戻る。

辛うじて、気合いのタスキで持ちこたえたキバゴだつに、ブラツキ

ー ノワールのしっぺ返しが叩き込まれた。

「キ、キバア〜」

ぐるぐると目を回しながら倒れるキバゴをボールに戻しながら20人目の対戦相手、ミニスカートのマキは言う。

「凄いなあ……、一回も攻撃出来なかつたよ。この調子なら次のサブウェイマスターも余裕だね」

”ほめる!!”とばかりに咽を鳴らしながら擦り寄ってくるノワールを右手で

ノワールが甘えているのを見て、遠慮がちに近付いて来たレクイエムを左手で撫でてやりながら彼女は言う。

「この子達が頑張ってくれたからね、私は手伝いをしたに過ぎないよ」

そう言い終わると同時に、トレインは駅に停車しドアが開く。

「それじゃあ、私はここで。次も頑張つてね」

トレインを降り、手を降るマキを見送ってから彼女は二匹に向き直

る。

「さて、そろそろ行くか？」

レクイエムは『もちろん！』とばかりに、腕の炎を一層大きくさせノワールは自信に満ちた瞳で見詰めてから、ゆっくりとうなずいた。

二匹をボールに戻し、彼女は七両目。サブウェイマスターが待つ車両へと続く重たい扉へ手を伸ばした。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n1971z/>

---

地下鉄迷宮

2011年12月7日01時59分発行